

時間の価値を高めるものは〇〇である！！

先週から新たな挑戦をスタートしました。これをやるというんな力が身に付くみたいです。例えば、行動力や集中力、記憶力、直感力、発想力など…これは魅力的です。ほかに、視野まで広がるとか…。これはもうやるしかない。

いつからかは、はっきり覚えてはいませんが、毎週日曜日の朝になると、突然スマホが「ピロリン♪」と鳴るようになりました。スクリーンタイムです。聞いてもいないのに、自分の1週間を分析し、1日あたりどのくらいスマホを使用しているのかをお知らせしてくれます。ご丁寧に前の週との比較まで…。ちなみに、先週の私の1日平均はなんと5時間超えです。いくら仕事でも使っているとはいえ、衝撃的な数字です。

当たり前ですが、かつてこの5時間は別のことをする時間に使っていました。アメリカ・アップル社の iPhone が日本で最初に発売されたのは今から15年前です。私は当時高校生。スマホの登場で私たちの生活に2つの変化をもたらしました。ひとつは、私たちの生活が単純に忙しくなったということです。もう一つは、今や小学生も大人も、受け取れる情報量は基本的に同じになりました。何か疑問があれば、誰でもググることがができます。出てくる情報量は同じですね。一方、ネット上の情報は、ほとんどが嘘だとも言われます。情報量が莫大に増えていることで、情報量の価値は下がり、正しい情報や良い情報を得るための時間は逆に長くなっていることに気付いている大人はどれくらいいるのでしょうか。

そんな今だからこそ価値が上がっているのは「本」です。匿名性が高いネットとは異なり、本は著者や出版社の名前を明らかにして売られています。もし、本に嘘の情報ばかりが載っていれば、著者だけでなく、出版社までもが不利益を被るので、「本=良い情報のまとめ」だといえます。300冊以上の著書を書かれている竹内均氏によれば、「読書によって、人は古今東西の知的財産を知ることができる。つまり読書とは、『時間を買うことと同じ効果』が得られる」と、時間の価値を高めるものは読書であると明言しています。

実は日本人は本を読みません。文部科学省の調査によると、日本人の年間の読書量は12.3冊です。1年は12か月なので、1か月に1冊です。さらに、文化庁の「国語に関する世論調査(2018年度)」において、「1か月に大体何冊くらい本を読んでいるか(雑誌や漫画を除く)」という質問に対しては、本を1冊も読まないと回答した人が、全体の47.3%、驚きです。ちなみに、月に1~2冊は37.6%、3~4冊が8.6%、5~6冊が3.2%と続き、7冊以上は3.2%です。

本との出会いは「人との出会い」です。だからせめて、本を通して、いろいろな人に出会ってみると、自分の知らない世界があることを知ったり、今の自分を突き動かしてくれるヒントを得られりするかもしれません。もし、今人生が思うようにいかないと感じていたり、仕事が辛い、楽しくないという思いを抱いていたりする人にとっては、新たな出会いを通して、ヒントが得られるかもしれません。

たった一冊の本との出会いで人生はガラッと変わる

大学生のとき、暇つぶしのつもりで読んだ、司馬遼太郎作の『竜馬がゆく』(文春文庫)は、私の人生をガラッと変えました。この本を読んで、「商売って面白いなあ!」「商人ってなんてカッコいいんだろう!」と大衝撃を受けたのです。「周りに流されず、時代に流されず、常に自分流で生き抜く男の中に出会った、この男に惚れた!」と思ったのです。

竜馬は独自の商人感覚で武士の時代を変えていきます。

自分が成功したいとか、自分が幸せになりたいなんて、自分のことはこれっぽっちも考えません。

みんなが幸せになるために、日本が幸せになるために、本気で考え、命がけてとことん動き続けたてっかい男でした。こういう男こそ、強くて優しくてカッコいい人なのだと思います。

私の心に火がつかしました。

それまでの私は警察官になることが夢で、そのために柔道も一生懸命にやっていました。それが『竜馬がゆく』に出会い、いきなり商人を目指すことに決めたのです。

一冊の本との出会いで、私の人生がビックリするほど変わった瞬間でした。

それからの私は、坂本龍馬のことなら何でも知りたくて仕方ありませんでした。

頭のなかには龍馬のことでいっぱい。ヒマを見つけては、坂本龍馬について書かれた本を探しまわり、貪るように読みました。本といえばマンガしか読まなかった私が、龍馬の本を読んで感じたことをメモするまでになったのです。

丸くともひとかどあれやひと心 あまり丸きは転びやすきぞ

これは、龍馬が好んだ言葉です。私流に訳すと、こんな感じになります。

この世の中というものは、みんな違ってみんないいのである。個性が生きてこそ社会は良くなる。

みんなが丸くなってしまえばこの世は変化もなく、進化もない。 そんなのはちっとも楽しくない。

世の中には理不尽な出来事も多いものだ。 そんなとき、「こんちきしょう!」という心を持っていないといけないぜ。

人生で何が一番いけないことかといえば、毎日「つまらない」と思いながら、いやいや過ごしてしまうことだ。

目上の人や親に感謝し、尊敬の念を持つのは大切なことだが、言われたことをただ「ハイ」と鵜呑みにしているようでは 人の役に立つような人間にはなれやしない。「なぜ?」「どうして?」という 素直な疑問と興味を持ち、自ら考えて行動する一角がある人間になるほうが、人生は楽しいし、成長できる。

親にとって一番うれしいのは、子どもが成長し、自立することだ。

自信を持って、自分のでこぼこした一角を大事にしよう!

こんなふうに龍馬語録の意味を自分なりに考えては、体全体に染み込ませようとしたのです。

子どものころは読書ガライだった私が、本屋のオヤジになって、こうしてみなさんに本をおススメしているわけですから、人生って本当にドラマチックですね。

『非常識な読書のすすめ』(清水克衛/現代書林)より